

浜嶋です。

おはようございます。

昨日のスカウト祭には、ビーバー隊の体験者が5人参加してくれました。これまでにない多いことをうれしく思います。人数が増えて大変盛り上がりました。スカウトたちは何よりも「なかま」が多いことは楽しいことでしょうね。一人ひとりは、自分の存在感が小さくなったと感じるスカウトもいるかもしれないです。それが社会的な経験につながるのではないのでしょうか。

MVPの発表で、自分に投票されていることについて、スカウトたちの心にどんなに影響があるのでしょうか。体験者にも投票があったことには、びっくりされたでしょうね。でも、喜びは大きかったと思います。よかったです。頑張ることを自覚できる年齢になると、投票があると自信が深まるでしょうね。1票の投票数から発表するのは、栄えある上位3名の他にも多くのスカウトに自信を持ってほしいからです。また、保護者の期待もあるかと思います。

話は替わります。一方、私は、スカウトとしてふさわしい行動ができるのかどうかを教育的効果として観察しています。年少スカウトは、わいわい、がやがや、好きなように大声を出すことは当たり前です。でも、ボーイスカウトです。スカウトとしての自覚を発揮できる行動を少しでも出来るようになってほしいと思っています。それをコントロールする指導者の対応も重要です。年長スカウトでは、田中駿伍君は、仲間がいないこともあって、一人黙ってみていました。「少し面倒をみてあげてくれ」と声をかけました。年長スカウトよりも年少スカウトが圧倒的に多かったですね。駿伍君は、圧倒されていたかもしれません。

コップのジュースを目標線まで飲むゲームは、子供会的になってしまったと無念を感じました。白崎リーダーは、ロープを取り出してスカウトの位置を後ろに下げる努力をしていました。ローバー隊は、どんなノウハウを発揮できたのでしょうか。私は、坂口副長に「スカウトたちに1分間目をつぶらせて、頭を冷やしてください」とお願いしました。「なんで？」と声を出していたスカウトもいました。

私たちは、ルールの中で生活し、ルールを守ることを大切にしています。どんなゲームにもルールがあります。年少スカウトたちに地道にルールを体得してもらうのも教育の一つです。ボーイスカウトは、ルールを守らせるように誘導するにもゲームという武器で対応できることが強みです。静かにさせるときに、指を天高く上げる。それを見たスカウト全員が、口を閉じてそれにならう。いくつかあります。今後スカウトが増えていく中で、いままで眠っていたノウハウを持ちだして、楽しく気持ちのいい雰囲気作りをお願いしたいで

す。

懇親会は、34名の参加でした。特に、保護者の参加が増えてとてもうれしかったです。保護者同士の交流を活発にできるチャンスです。今後も楽しみにしてほしいです。